

令和元年6月21日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11553

研究課題名(和文)一貫した教育の実質化を可能にするユニフィケーションモデルの構築

研究課題名(英文) Building a unification model that enables the substantialization of consistent education

研究代表者

新井 麻紀子 (Arai, Makiko)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教

研究者番号：10644552

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：看護系大学教員と臨床現場の看護師との人材交流について実施をこころみたものの、実習施設と大学の運営母体が異なるため勤務の調整や給与形態、患者に対するケアの質保証と責任の所在についての問題がクリアできず実現にはいたらなかった。一方で、新人看護職員に対する継続看護の在り方や、中小規模病院において働きながら看護を学ぶ勤労看護学生へのキャリア支援など、臨床現場における「継続教育」の側面から協働することができた。また臨床現場から教育の現場へとキャリアチェンジした新人看護教員への支援の1つとして熟達教員とのリフレクション研修のプログラムを実践し、新人看護教員が、教育実践能力を獲得する為の一助となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護系大学教員は臨床の現場を離れたところで学生を教育しており、看護師教育は「教育」と「実践」が組織的に一元化しておらず教育と臨床の現場での乖離が問題となっている。そこで、看護教員と臨床看護師との人材交流について実施をこころみたものの、実習施設と大学の運営母体が異なるため実現にはいたらなかった。一方で、新人看護職員に対する研修や働きながら看護を学ぶ勤労看護学生へのキャリア支援など、臨床現場における「継続教育」の側面から協働することができた。また臨床現場から教育の現場へとキャリアチェンジした新人看護教員への支援策としてリフレクション研修を実践し新人看護教員が教育実践能力を獲得する為の一助となった。

研究成果の概要(英文)：Although efforts were made to promote personnel exchanges between nursing school teachers and nurses in clinical settings, the problem of work coordination, salary structure, quality assurance of patient care and responsibility could not be solved because the operating organization of the training facility and the university were different. On the other hand, we were able to cooperate from the aspect of "continuing education" in clinical practice, such as the ideal form of continuous nursing for new nursing staff and career support for working nursing students studying nursing while working at small and medium-sized hospitals. The program of reflection training with experienced teachers was implemented as one of the support for new nursing teachers who changed their career from the clinical field to the educational field, and it helped new nursing teachers to acquire the teaching practical ability.

研究分野：看護教育学

キーワード：ユニフィケーション 乖離 実現可能性 継続教育 協働

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年看護基礎教育は、大学へと移行しつつあり看護系大学は 1991 年には 11 校であったが、1992 年「看護師等人材確保の促進に関する法律」の制定後 2000 年には 82 校、2018 年 4 月時点で 263 校に増加した。看護教育では教員は臨床の現場を離れたところ（各養成施設内）で学生を教育し、臨床に赴いて実習するという形態が通常となっている。つまり「教育・研究」と「実践」が組織的に一元化していないのが現状で、この点が医学部での医学教育の体制と大きく異なる。看護教育特有の教育システムは、臨床現場で働く看護師は看護実践にエネルギーを注ぐことができ教員は教育・研究に重点を置くことができるという利点があり、このような役割分担はわが国における看護力の不足を補うために、また早急に看護教育を職業教育から高等教育へ移行したいとの思惑に叶った方法であったといえる。しかしながら実践の科学であったはずの看護学において、役割を分担することで看護実践の現場と教育・研究の現場での乖離ができてしまったこともまた事実である。基礎教育終了時（卒業時点）の看護実践能力と臨床現場で求められる看護実践能力との乖離の 1 つの要因として「看護師養成機関の教員が、臨床現場から長く離れていることが多く現場の感覚を持って臨場感や迫力のある授業を展開することが困難であること」が挙げられる。それ故に、何も知らない学生に看護がイメージできるよう支援するには、一貫した教育の実質化が必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、附属病院をもたない看護師養成施設の教員と実習病院の看護職員が積極的交流を図ることにより、教育と臨床の乖離の軽減とリアリティショックに対応した一貫した教育の実質化を図ることである。本研究は附属病院を持たない看護師養成施設と実習病院との実現可能なユニフィケーションモデルを提案するものであり、看護系大学 263 校の大部分を占める附属病院を持たない看護系大学の看護基礎教育の在り方に関する示唆を得ることができる。

3. 研究の方法

(1) ユニフィケーションモデルに関する文献検討

医中誌 web にて 1900 年代から 2018 年までに至る国内文献の検討をおこなった

(2) 看護実践現場における継続教育支援（継続教育における協働）

院内研究指導については、看護実践現場における疑問点を洗い出し、それが研究となり得るか否かを研究支援者として検討した。研究のステップに基づき、業務をしつつの研究となることから負担の内容に研究スケジュールを立て実践した

新人看護職員に対する支援については、教育担当者（メンター）の教育的思考を高めるような研修プログラムを計画し実践した。新人看護職員の置かれている状況を見極め、支援の方法を変えることが必要である旨、強調した。新人看護職員と教育担当者の思いに対する乖離をアンケート調査にて明らかにした。

中小規模病院において働きながら看護を学ぶ勤労看護学生へのキャリア支援については、対象者の勤務に合わせ参加観察し、入職 3 か月後、6 か月後、1 年と経過を追いながら「働く」ことの意味をどのように見出ししていくのかをインタビュー調査をした。

臨床現場から教育の現場へとキャリアチェンジした新人看護教員への支援については、熟達教員とのリフレクション研修のプログラムを 1 年間継続して実践し、リフレクション後に自己の教育実践がどのように変化したのかをインタビュー調査をした。

4. 研究成果

(1) ユニフィケーションモデルに関する文献検討

本研究は看護教育のシステム構築に関する研究に位置づけられる。医中誌 web にて 1900 年代から 2018 年までに至る国内文献の検討をおこなったところ国内のユニフィケーションモデルは幾通りかのタイプに分けられていた。平岡らが 1999 年に分類した 看護教員 - 看護職併用型、 師長 - 看護教員兼任型、 看護教員 - 看護職兼任型、 大学 - 地域連携型の 4 パターンを軸に現在も大別されており、それぞれ時代に応じた見直しや組織の特徴に合わせたユニフィケーションモデルの構築がなされていた。附属病院をもたない看護系大学の場合、タイプ は非常に困難であり、ほとんどがタイプ の地域連携型であり、院内看護研究の講師、実施指導者研修の講師として臨床の現場に赴くことが多い現状であった。神奈川県のように行政主導で県立の看護学校の教員と県立病院の看護師の人事交流を実施しているパターンや、専門看護師外来に週 1 回赴くパターンなど、個人的な活動として看護実践能力を磨いている看護教員も存在も確認できたが、附属病院を持たない看護系大学に限定したユニフィケーションモデルの構築についての先行文献は見つけることが出来なかった。

既存のユニフィケーションシステムの中のとくに看護系大学教員と臨床現場の看護師との「人材交流」について実施をこころみたまものの、実習施設と大学の運営母体が異なるため勤務の調整や人材確保、予算、なによりも患者に対するケアの質保証と責任の所在についての問題がクリアできず実現にはいたらなかった。本研究は附属病院を持たない看護系大学の教員が臨床現場とどのように連携していくべきなのかを主眼とするものであったが、そもそもなぜ看護教員に教育実践能力と看護実践能力のどちらも必要であるのかを掘り下げ、確固たるエビデン

スの下に提案する必要があったと考える。また、看護系大学教員の看護実践能力を維持・向上するために人事交流以外の方法は無かったのか、他にどんな方法があったのか等を検討する必要があった。

(2) 看護実践現場における継続教育支援(継続教育における協働)

一方で、「院内研究指導」や「実施指導者研修」の名のもとに実習病院へ赴くことは実現可能であったことから、新人看護職員に対する継続看護の在り方や、中小規模病院において働きながら看護を学ぶ勤労看護学生へのキャリア支援など、臨床現場における「継続教育」の側面から協働することができた。また臨床現場から教育の現場へとキャリアチェンジした新人看護教員への支援の1つとして熟達教員とのリフレクション研修のプログラムを実践し、新人看護教員が、教育実践能力を獲得する過程には[不消化な経験の整理][事例を基に教育の視点と手段のシミュレーションを繰り返し発見する]看護教員としての視点や手段を使って学生の変化を確認]の3つの段階を経ることを明らかにすることができた。

<引用文献>

厚生労働省：今後の看護教員のあり方に関する検討会報告書，2010.2.17
平岡敬子、高田法子：ユニフィケーションモデルの検討 臨床と大学の連携と可能性、看護学統合研究,2(2),1-8,2001

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 6 件)

徳本弘子・後藤桂子・新井麻紀子、実習指導困難事例から見た新人教員の实習指導の特徴、埼玉県立大学紀要、査読有、第17巻別冊、2015、p.23-30.
新井麻紀子・野崎由里子・田中千鶴子・徳本弘子、中堅看護師が認識する自己の置かれている状況に関する国内文献の検討、第46回日本看護学会論文集 - 看護教育 -、査読有、2015、p.218-221.
新井麻紀子・浅野陽香、在宅移行連携において訪問看護師が病院看護師に臨むこと、日本看護学会論文集 - 慢性期看護 -、査読有、2016、p.151-154.
Hiroko Tokumoto・Katsura Goto and Makiko Arai、Reflecting on Clinical Training Instruction,Improving New Instructors' Capabilities Available online 24 October 2016.
新井麻紀子・徳本弘子・黒田るみ、新人看護教員の教育的思考と手段の獲得過程 事例検討を通して、保健医療福祉科学、査読有、第7巻、2017、p.40-45,2017.
新井麻紀子・木下千晴、勤労看護学生の働く意味から探るキャリア形成支援の在り方、日本看護学会論文集 看護教育、査読有、2019、p.27-30.

[学会発表](計 2 件)

新井麻紀子「一貫した教育の実現化を可能にするユニフィケーションモデルに関する国内文献の検討」日本看護学会 - 看護教育 -、2019 発表予定
新井麻紀子「新人看護教員から中堅看護教員へと移行する段階の教育力量形成過程」日本看護科学学会、2019 発表予定

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：徳本 弘子

ローマ字氏名：Hiroko Tokumoto

所属研究機関名：埼玉県立大学

部局名：保健医療福祉学部看護学科

職名：教授

研究者番号（8桁）：00315699

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。